

新潟水俣病の被害は **なぜ** くり返されたのですか？



Q9

熊本で水俣病が発見されてから、どうして9年もたった1965(昭和40)年に新潟水俣病が発生することになったのですか？



A9

新潟水俣病が発生したころは、経済成長を優先し、人の命や健康、環境を守ることが後まわしにされたことで発生したと言えます。

熊本大学の研究班は、1959(昭和34)年に、有機水銀が水俣病の原因として公表しましたが、原因の特定は1968(昭和43)年の政府統一見解を待たなければなりませんでした。

また、通商産業省^{※3}は、1959(昭和34)年にチッソ水俣工場と同じようにアセトアルデヒドや塩化ビニルを生産している全国の工場の調査をしましたが、結果は公表されず、水俣病の発生を防ぐ効果的な措置はとられませんでした。

このころ、日本では戦後の復興が終わり、国をあげて技術革新によって新たな経済発展を目指そうとしていました。そのため、人の命や健康、環境を守ることよりも、国の経済成長や会社の利益を増やすことを優先したことで発生したと言えます。



Q10

どうして差別がおきたのですか？ どんな差別があるのですか？



A10

最初は、原因がわからなかったことがありました。その後は、裁判を起したり救済を受けたりしたことで「金目当て」、「ニセ患者」などと差別や偏見をもたれました。

最初に水俣病が発見された水俣市では、水俣病の原因がわからず、患者の家を消毒したり、伝染病棟に入院させたりしました。その後、原因が伝染病ではないことがわかってからも、行政や報道機関がはっきり取り消さなかったため、周りの人たちに伝染病、こわい病気という考えが残ることになりました。

新潟でも、最初は「タタリ」、「ナゾの病気」などと言われました。また、多くの患者は外見からは健康な人と見分けが付きにくく、水俣病ではないかと申請をしても、認められないと「金ほしさに申請した」とか「ニセ患者」と言われたり、裁判を起こすと「そこまでして金がほしいか」などと中傷されました。他にも嫌がらせの電話やはがきが届いたり、家を建てると「水俣御殿を建てた」などとねたまれることもありました。

(注) 資料の中で、水俣病全体についてのことは「水俣病」と、新潟水俣病についてのことは「新潟水俣病」と書いてあります。

※3 通商産業省：現在の経済産業省。国の産業を活発にするための政策をつくる機関

※4 「公害健康被害の補償等に関する法律」や「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法」のこと。

※5 「新潟水俣病地域福祉推進条例」のこと。



Q11

差別や偏見は今でもありますか？



A11

新潟水俣病に対する差別や偏見は、まだ続いています。

以前ほどではありませんが、今でも、法律^{※4}に基づいて認定などの申請をした人に対して、「金目当て」とか、「ニセ患者」などの誤解や偏見をもたれることがあります。熊本では、修学旅行先で「水俣の子どもと泊まりたくない」とか、部活動の試合などで「水俣病、さわるな!」と言われるなど、今でも水俣市の人たちへの差別やいじめ(偏見)が起きています。

差別や偏見をおそれて「そっとしておいてほしい」とか「寝た子を起こすな」と周りの目を気にしている人や、自分が水俣病であることを隠している人もいます。



Q12

なぜ、差別や偏見はなくなるのでしょうか？



A12

新潟水俣病が正しく理解されていなかったり、相手の立場に立って考える心が欠けていたりすることが原因ではないでしょうか。

同じ地域の中で「ニセ患者」「金目当て」など被害者への偏見や中傷が相次ぎました。「人は、集団になると横並び意識、ねたみなどから自分たちと異なる者を差別しがちになる」という、今日でもみられる考えをとりやすい傾向があります。

新潟県では条例^{※5}をつくり、新潟水俣病患者への差別や偏見がなくなるように取り組んだり、学校でも新潟水俣病のことを学習する取組を進めています。まずは、私たち自身が、新潟水俣病がなぜ起きて、どういう病気なのか、どんな苦しみがあるのかなど新潟水俣病を正しく理解し、そして周りの人たちにも伝えていくことが大切です。皆さんも、自分が差別や偏見をなくすにはどうしたらよいか、どう行動したらよいか考えてみましょう。